

山櫻會と大学校友会

【平野会長】

大学校友会の場合、ここ近年、大学との関係が改善してきたこともあり、組織を変化させ、もう一歩進んだ形の活動が必要と考えています。

よく言われるのですが、山櫻會と大学校友会という二つの同窓会の存在自体がおかしい、との意見もあります。しかし、今の段階では、これを統合することは難しいと考えていますが、何かあるときに山櫻會と一緒にやれば良いのではないか、と考えています。また、大学とも、連絡協議会をふまえて、関係を深めていきたい。今まで、学生組織である学友会との連絡もほとんどなかったのですが、今後は、連携を深めたい。彼らが何を求めているかを把握し、連携していきたい。山櫻會が言われるように「開かれた校友会」に向けて、進めていきたいと思います。

【大木理事長】

本学院の卒業生は小学校だけ、中高だけと様々ですが、山櫻會が頑張っているため、垣根が低くなってきた。ただ、卒業生のそれぞれの在学時の思い出が違うので、垣根も完全になくなるわけではない。大学校友会と山櫻會の場合も同じことが言えます。

ですから垣根があることを前提にして、包括的にまとめることが大事です。会社で言えば、ホールディングスみたいに統合する必要があると思います。

【川原会長】

山櫻會も、大学校友会も、それぞれ3万人、4万人の卒業生を抱え、それぞれ独自の同窓会活動をしているわけです。これが直ちに一つになることは客観的には難しい。しかし、ベクトルは同じだ、と。母校・追手門学院に対する思いは同じなのです。この観点からすると、二つの同窓会組織を大きな傘でまとめるのも一つの方法です。

その過程において、双方の同窓会が、相互交流を進め、共同事業を活発に実施する、という努力が必要です。

追手門学院の生き残り戦術は

【川原会長】

学院を取り巻く現実の環境を見ると、早稲田大学が、系列校の一つとして、茨木に早稲田撰陵高校を進出させました。全国区の大学が関西進出してきたのです。関西大手の関関同立も、小中高の系列化、囲い込みを目指しています。果たして、追手門学院の生き残り戦術として、どういう方針があるのか、お聞きしたいと思います。

【大木理事長】

追手門学院には、立派なブランドがあるが、ブランド戦略に十分叶っているのは小学校と幼稚園です。両中高は、もう少し頑張って欲しい。大学はまだブランドの域に届いていないので、もっと頑張ってもらいたい。

ありがたいことに、世間は、追手門ブランドを実力以上に評価してくれています。すべての学校・園が、追手門ブランドに叶うようになってもらいたいものです。

【川原会長】

鈴木学院長にも、追手門学院の生き残り策についてお尋ねしたいと思います。追手門学院大学が、互角に他校と対抗できるのか。

【鈴木学院長】

この大学に来て驚いたのは、学生数が増えてきているときに、他の大学は動いていたのに、追手門学院大学は、見事に動いていなかった。

今動こうとしているのですが、全学的に動けているか、というと必ずしもそうでないところに問題がある。

では、本学どの辺を狙うべきか。川原さんおっしゃったように、互角に対抗できるかというと、はじめからできる訳がない。

追手門としてのアイデンティティを立てることによって生き残れることであって、関関同立とともに対抗しようとすると、それは玉砕



弁護士 川原 俊明

弁護士 中村 信仁
弁護士 稲永 泰士
弁護士 中橋 敦
弁護士 箸尾 朋典
弁護士 菅原 謙太郎
弁護士 中村 秀樹
弁護士 梅森 史子
弁護士 渡邊 計之
行政書士 有方 清一郎

〒530-0047 大阪市北区西天満2丁目10番2号 幸田ビル8階
TEL : 06-6365-1065 (代表) FAX:06-6365-7265
IP電話:050-5520-4503
E-mail:kawahara@e-bengo.com
http://www.e-bengo.com

川原 俊明

小 71・中高14期

建築・都市・上下水道
SHOWA SEKKEI
株式会社 昭和設計

これまでの50年、これからの50年
<http://www.showa-sekkei.co.jp>

代表取締役社長 沼田 直

[本社]
〒552-0007 大阪市港区弁天1-2-1-800 オーク1番街
TEL:06-6575-5555 FAX:06-6575-5556

ステンレス加工のパイオニア
株式会社 精和工業所
代表取締役社長 山下 清一

兵庫県伊丹市北本町3丁目105番地
TEL:072-782-0281(代表)
<http://www.seiwa-ic.co.jp>

山下 清一

中高 14期